

## ■■■ 続・大腸 CT 検査 ■■■

消化器内科 尹 京華

2016年2月より当院で大腸CT検査が実施できるようになっております。侵襲の少ない大腸検査として幅広い年齢層の患者様に受けていただいております。前回の三宿病院NEWSで紹介した要約です。大腸CT検査とは内視鏡を挿入しないため「バーチャル大腸内視鏡検査」とも呼ばれます。肛門から二酸化炭素を注入し大腸全体を膨らませてからCTで撮影します。撮影された情報からコンピューター処理によって大腸の立体画像を作成し、大腸ポリープ、癌などの診断を行います。検査時間は概ね15分程度です。病変の発見率は内視鏡とほぼ同等です。侵襲の少ない大腸CT検査でも被検者には前日からの前処置をきちんと行っていただくことが大事です。私たちが用いている検査食は質・量ともに工夫された検査食で被検者の受容性は良好です。

2018年3月までに実施できた123件の大腸CT検査の内容を紹介したいと思います。まず検査を受けられた年齢層は40歳以下から90歳以上と幅広く(図1)、85%の患者様は60歳から80歳代の方でした。90歳以上の方は3名でした。大腸CT検査の受容性が高く、重篤な合併症は認めませんでした。検査直後にほとんどの方が腹部膨満を自覚しましたがおよそ15分から20分程度で症状が消退しました。次は実施理由ですが(図2)、便潜血・便通異常と腹痛がそれぞれ20%で、続いて手術前検査が19%、内視鏡挿入困難例が16%でした。他の理由として大腸ポリープのフォローアップ、スクリーニング、腫瘍マーカー高値、潰瘍性大腸炎、過敏性腸症候群が見られました。40%の理由は便潜血及び便通異常・腹痛で占めています。

大腸癌は2018年のがん罹患数予測で1位、がん死亡数予測では肺癌に続いて2位になっております。大腸CT検査は便潜血の精密検査及びスクリーニング検査として侵襲が少なく非常に有用であると思われます。内視鏡検査に不安の強い患者さんには、ぜひ一度消化器内科(消化管)へご相談ください。

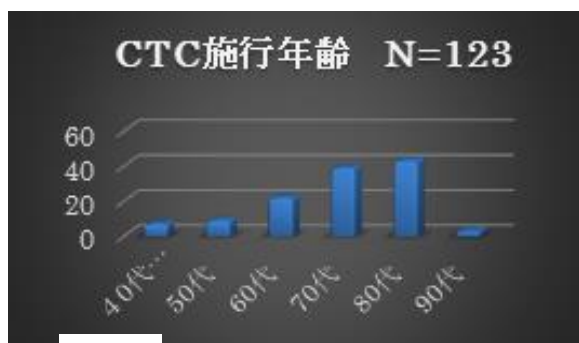


図1

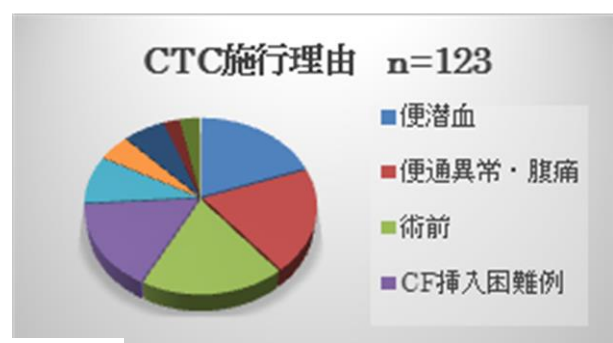


図2